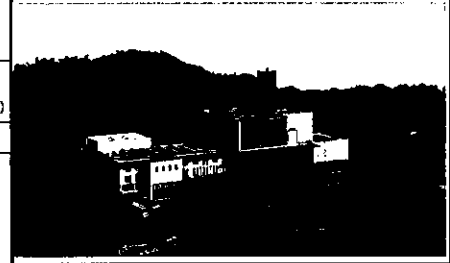


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)宮津与謝広域ごみ処理施設	階数	地上4F、地下2F
建設地	京都府宮津市字須津小字大谷、与謝	構造	SRC造
用途地域	指定無し	平均居住人員	40人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2016年12月5日
敷地面積	20,838㎡	作成者	西出 浩
延床面積	5,007㎡	確認日	2016年12月5日
延床面積	9,274㎡	確認者	沼田 保一



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE=0.9 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 93%</p> <p>③上記+②以外の 96%</p> <p>④上記+ 96%</p> <p>0 46 92138 823278236814165055599 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア= 2.9</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 2.9</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 2.7</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 3.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア= 2.8</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 2.6</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.0</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 2.9</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>日本三景の一つ、天橋立の近傍に立地することから、歴史や伝統の残る本地域との調和をめざし、周辺環境への影響を考慮しつつ、天橋立に象徴される「つなぐ」をコンセプトを基に、循環型社会構築の要となるこの施設が、豊かな自然と文化を未来に引き継ぎ、絆を育む場となることを目標として計画した。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>居室部分は窓に遮熱性能の高い、LOW-Eペアガラスを用い、外壁ALCパネルに断熱材を施すなど、空調負荷低減に配慮している。また、京都府産木材を使用したり、植栽プランターを各所に配置し、視覚的にぬくもりを感じ</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>耐震性を増し、建物の安全性・信頼性を高めている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>建物高さを抑えて圧迫感を低減し、景観に配慮している。また計画敷地である与謝野町のちりめん街道は重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、屋根部分にはそれらの特徴である黒い瓦屋根をイメージしつつ、現代的</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>省エネルギー機器の採用に加え、トップライト及びソーラーパネルの設置を行っている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>環境を破壊しない資材(化学物質・冷媒等)を活用し、府内産木材を研修室の内装に使用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>浄化槽排水を工場内部で処理する事により下水接続を無くしている。また照明付サインなどを設置せず、周辺環境に配慮している。また、敷地内の植栽には地域特性を生かす、クロマツや椿を配置し、親しみが持てる植栽計画としている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される